

# 藤島地域の公共交通再編に係る調査事業を開始します

鶴岡市では、バス路線などの幹線については市の責務として維持に努め、そこに繋がる枝線については、地域が主体となる地域公共交通を導入していく方針であり、地域が行う生活の足を確保する取組み等を支援しております。

しかし、社会情勢の変化に伴い、路線バスをはじめとした公共交通の路線維持が困難となる一方、少子高齢化の進展、運転免許証の自主返納の増加なども加わり、特に公共交通空白地帯の高齢者の移動手段の確保が喫緊の課題となっています。

藤島地域では、東栄地区、長沼・八栄島地区にデマンドタクシーによる地域公共交通が導入されましたが、バス路線が通る地区においても交通弱者問題は、地域課題となっており、新たな公共交通の導入を望む声もあがっております。このような背景からも藤島地域全体の交通再編に取り組む時期にきていることから、今年度より調査事業に着手します。

# 各地区の現状【東栄地区】

## 現状と課題

東栄地区(古郡、大川渡、谷地興屋含む)でデマンド型タクシー「ふれあい号」として運行を開始し12年が経過。東栄地区自治振興会が運営協議会を組織し、庄交ハイヤー(株)へ運行を委託して、地域主体での地域公共交通の確保に努めています。

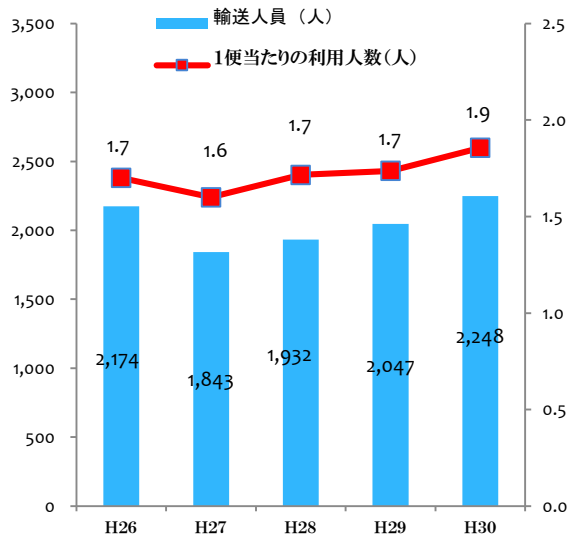
これまで、地道なPR活動やニーズ調査などを行い、一定の利用者の確保に努め、「大切な地域の足」を維持してきました。今後も時代の変遷とともに変わる住民ニーズを把握し、地域に親しまれるデマンド交通を目指します。



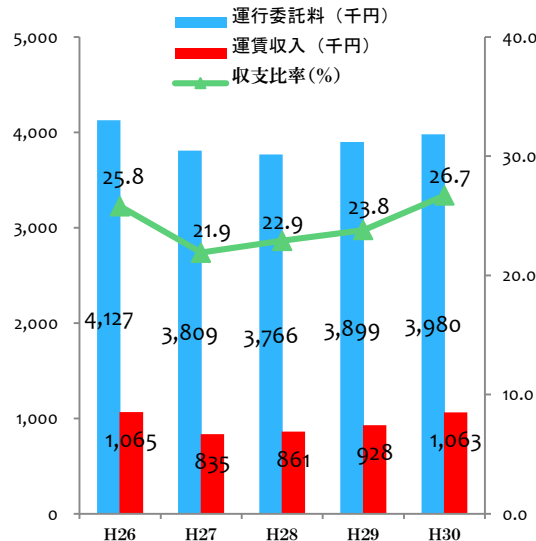
### ➤ 運行概要

運行主体	藤島東栄地区デマンド交通運営協議会
運行形態	一般乗合旅客自動車運送(4条)
車 両	受託事業者のタクシー 愛称「ふれあい号」
運行回数	月～土曜日・1日 往3便 復4便
地域負担	200円/世帯 (R1:628世帯)
利用料金	地区内300円、地域内400円、 市街地800円(高校生等半額) 回数券(20回分で22枚綴り)
運行経緯	H21.1～路線バス廃止代替
協議会 設立	H20.5 地区が主体となり設立
主な取組 (R1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用のしおり全戸配布</li> <li>・アンケート調査</li> <li>・高校生通学利用促進</li> </ul>

### 輸送人員推移



### 運行経費推移



# 各地区の現状【八栄島地区・長沼地区】

## 現状と課題

八栄島・長沼地区は、庄内交通の鶴岡－押切線が平成11年3月に廃止、その後、町営バス「ぽっぽ号」が運行されましたが、利用者減少により平成15年3月に廃止された経緯があります。

以降は、家族や地域の助け合いにより地域生活を支えてきましたが、平成27年頃からしだいに地域課題の一つとして「交通不便」があげられるようになりました。

こうした経緯を踏まえ、令和元年度より東栄地区のデマンドタクシーをモデルとした地域公共交通の導入を目指そうとする2年間の調査事業がスタートしました。この調査事業は、藤島地域と関わりのある大東文化大学社会学部への委託事業として実施しており、両地区でのワークショップやアンケート調査が実施され、地元での運行計

画の検討などを  
経て、令和3年6月2日よりデマンド型乗合タクシーの実証実験運行がスタートしました。



【R3 デマンドタクシー出発式】



【R1 ワークショップ】



【R2 検討委員会】

### ➤ 運行概要

運行主体	長沼・八栄島地区デマンド交通運営協議会
運行形態	一般乗合旅客自動車運送(21条)
車 両	受託事業者のタクシー 愛称「すまいる号」
運行回数	月～土曜日・1日 往3便 復3便 ※曜日により行き先が異なる
地域負担	200円/世帯 (R3:516世帯)
利用料金	地区内200円～300円、地域内300円～400円、市街地800円、三川町300円～400円、庄内町400円～500円 ※市街地のみ回数券あり(20回分で22枚綴り)
運行経緯	公共交通空白地域の解消 (地区要望)
協議会 設立	R2.12 地区が主体となり設立
主な取組 (R3)	・利用のしおり全戸配布 ・町内会説明会の開催 ・利用者アンケートの実施 (予定)

# 各地区の現状【藤島地区・渡前地区】

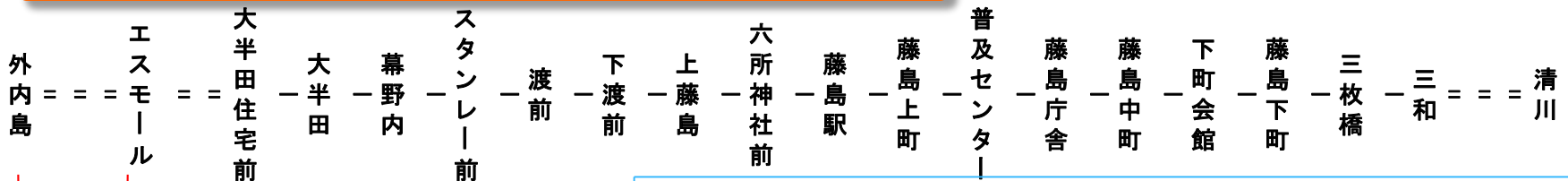
## 現状と課題

藤島地域で唯一の庄内交通バス路線「鶴岡－清川線」が運行されています。年々利用者の減少から減便、路線の縮小が行われており、今後も更なる縮小や廃止も予想されることから、住民の利便性を考慮した地域公共交通の導入について検討する時期にきています。

また、現状でもバス路線から遠いエリアは、公共交通空白地帯と言える状況にあり、交通弱者の移動手段の確保が課題となっています。



### 鶴岡－清川線 藤島地域内のバス停と路線概要



※R2. 4ダイヤ改正で廃止された区間

#### ○1日6便運行

- \* 上り7時台・9時台・15時台の3便
- \* 下り8時台・14時台・17時台の3便

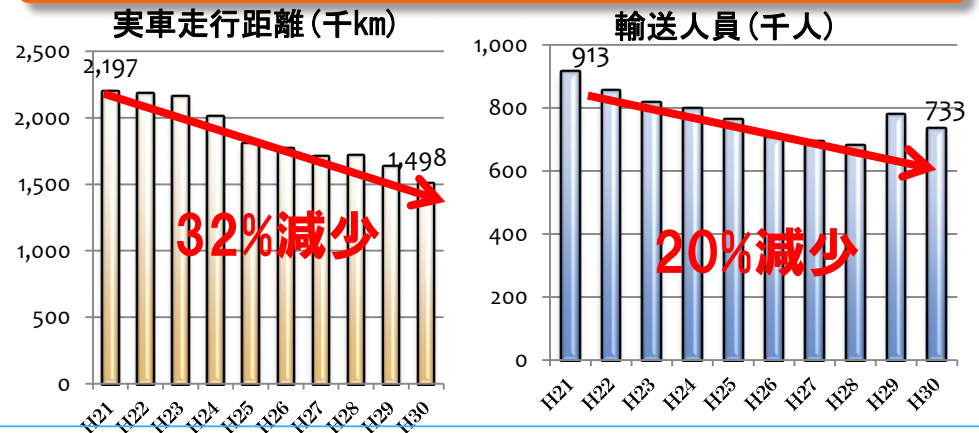
#### ○運休

- \* 土・日・祝休日
- \* 8/13～8/16、12/30～1/5の間

#### ○藤島地域内の乗車人数(H31年度)

- \* 日平均10.2人(1台平均1.7人)

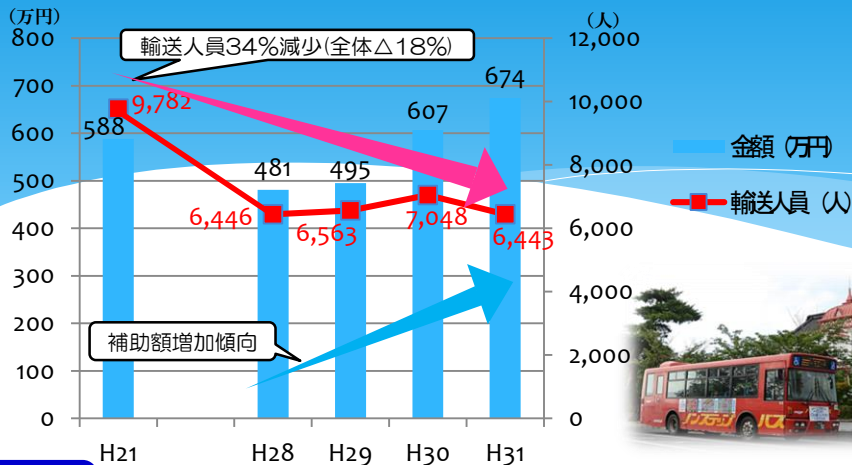
### バスによる輸送人員と実車走行距離 (全体)



# 藤島地域の公共交通再編に着手する背景

## 現状

### ■「鶴岡-清川線」の輸送人員と市補助額の推移



### ■藤島地域内の利用状況 (H31)

	1日あたり乗車人数	1台あたり乗車人数
鶴岡エリア (14区間 外内島-大宝寺)	13.9	2.3
藤島エリア (19区間 押口-京田橋)	10.2	1.7
庄内町エリア (12区間 千本杉-清川)	3.6	0.6
全体【合計】(45区間 29.1km)	27.7	4.6

- 日常的に利用している方が渡前地区に3名、藤島地区に1名いる
- 藤島地域内での年間延乗車人数は2,200名程度⇒※内約5割が上記4名の利用によるもの
- ◇1日6便運行 (土・日・祝休日は運休)
  - \* 上り7時台・9時台・15時台の3便
  - \* 下り8時台・14時台・17時台の3便
- ◇R2.4から「外内島-エスマール間」(10区間)が廃止されている

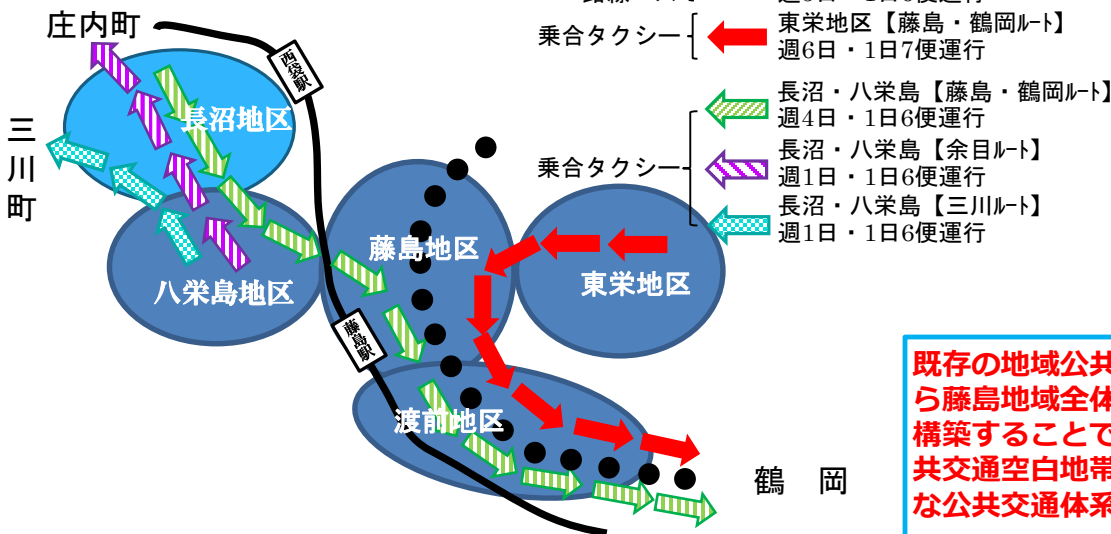
## 課題

庄内交通は赤字路線撤退したい  
補助金の投資効果が薄い

バス停まで遠ければ空白地域と同じ  
住民のニーズに合っていない

廃止となった場合の輸送手段の確保

## 各地区の位置関係と路線図



## 今後の方向性

- 廃止を前提に検討する (藤島・渡前地区の確実な輸送手段の確保と詳細な調査を実施) (R3)
- 藤島地域全体の交通網の再編計画案の作成 (R3~R4)
- 藤島地域全域を網羅する輸送手段の検討 (R3~R4)
- 各地区、関係機関との調整と運営組織の検討 (R4~R5)
- 新たな地域公共交通の立ち上げ (R6年度を目標)

既存の地域公共交通網を活かしながら藤島地域全体の地域公共交通網を構築することで、住民の利便性と公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系を確保できる。

【R3主なスケジュール】  
7月 高齢者ヒア (各地区)  
8月 交通事業者ヒア・バス乗降調査  
10月 各運営協ヒア・住民WS  
2月 補足調査・ビジョン提案